

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター 2010年度 事業報告書

事業目標

チャイルドライン支援センターの歴史を踏まえ、新しい局面に向かう節目にあたる 2010 年度の事業目標を 7 つ掲げ、事業を実施した。

- 1、新しい公共としてのチャイルドラインを、統一番号・フリーダイヤル 0120 - 99 - 7777 とともに社会に広く知らせる
 - (1)チャイルドラインの子どもへの周知と社会的認知を拡げるためのキャンペーンなどの実施
 - (2)チャリティ夢メッセージ展
- 2、未設置県へのチャイルドラインの設立を支援し、全国すべての都道府県にチャイルドラインを設立することをめざす。
 - (1)開設支援事業の実施
- 3、チャイルドラインの運営研修、電話を受けるための研修などの充実を図り、「チャイルドライン」の人材育成を支援する。
 - (1)全国研修の実施
 - (2)エリア研修の実施
 - (3)テキストの作成
- 4、全国及び近隣チャイルドライン同士の交流を図るとともに、行政、企業、他団体との連携、協働を推進する。また、世界の子どもヘルプラインネットワークに参画することによって、世界とつながる。
 - (1)全国統一番号・フリーダイヤル実施
 - (2)子どもの育つコミュニティ構築事業の実施
 - (3)ネットワーク会議、エリア会議の開催
 - (4)各種イベント・学会等へのブース参加等
 - (5)CHI 世界大会参加
- 5、チャイルドラインが受け止めた子どもの声を社会発信し、国や自治体などの子ども政策に反映させ、子どもの権利条約に保障された子どもの育ちを支える社会環境をつくる。
 - (1)「2010 チャイルドライン年次報告」の作成、配布
 - (2)子どもの声の社会化事業・データベース事業の実施
 - (3)議連、省庁、国会
- 6、認定 NPO 法人チャイルドライン支援センターの財政基盤を強化する。
 - (1)キャラクター展開
 - (2)ファンドレイジング
 - (3)助成、補助、委託
- 7、チャイルドライン支援センターのあり方も含めて組織運営の整備に着手する。
 - (1)組織運営の整備

事業に関する事項

- 1、新しい公共としてのチャイルドラインを、統一番号・フリーダイヤル 0120 - 99 - 7777 とともに社会に広く知らせる
 - (1) チャイルドラインの子どもへの周知と社会的認知を拡げるためのキャンペーンなどの実施
 - 第 11 回「子どもの日チャイルドライン」全国キャンペーンを実施した
 - ・スローガン：“すべてのこどもとおとなに届けよう、チャイルドラインの番号を”
 - ・実施期間：2010 年 5 月 5 日(水・祝)～5 月 17 日(月)
こどもの日(5 月 5 日)、世界チャイルドヘルプラインディ(5 月 17 日)
 - ・総アクセス数：33,350 件

- ・総着信数：11,799 件
- ・総通話時間：911 時間

広報及び体制強化のために、11月の虐待防止月間にあわせてキャンペーンなどの事業を実施した。

- ・チャリティ企画「Run for Child」などの実施を通してチャイルドラインの広報と資金集めに取り組んだ
- ・実施期間：2010年11月1日(月)～11月30日(火)
- ・サイト閲覧者数：2,077人
- ・Run For Child 走者：32名
- ・Run For Child 寄附：42,652円
- ・Run For Child 走行距離：約1,700キロメートル
- ・日刊ブログアクセス数：3,334件
- ・チャイルドラインCM動画閲覧数：700回

養護施設等で生活する子どもに向けた電話番号の告知を行った。(朝日新聞厚生文化事業財団助成事業)

- ・全国児童養護施設協議会の協力を得て、シールを全国の児童養護施設579施設に43,500枚配布した。

チャイルドラインで培った子どもへの寄り添い方を伝える公開講座実施の準備を行った。(朝日新聞厚生文化事業財団助成事業)

<1回目>

- ・タイトル 「児童養護施設」で子どもが求めていること
- ・実施日 2011年2月19日(土)13時～15時
- ・会場 シューレ大学
- ・講師 渡井さゆりさん(NPO法人日向ぼっこ理事長)
- ・参加者数 41名

<2回目>

- ・タイトル 子どもの力を信じ、伸ばす関わり方
- ・実施日 2011年3月12日(土)14時～16時30分
- ・会場 シューレ大学
- ・講師 津田知子さん(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)

3月11日に発生した東日本大震災により、中止となった

子どもの声を聞かせてキャラバン事業を、各地のチャイルドライン実施団体の協力の元、全国10箇所
で実施した。(独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」)

開催 CL	日時	参加者数	テーマ	講師(順不同・敬称略・肩書きは当時)
みやぎ	11月 13日	46名	『子どもたちの現状と子どもの 声を受けとめるシステム』	新田新一郎(アトリエ自由楽校) 北村志津枝(元養護教諭) 根本暁生(冒険広場プレーリーダー) 津田知子(セーブザチルドレン)
とちぎ	9月11 日	120名	【基調講演】子どもを大切にす る国 しない国』 【シンポジウム】地域発 子 ども支援のかたち』	阿久津正(高根沢町教育委員会事務局こどもみらい課課長) 牧恒男(児童養護施設さすな施設長) 丸山由美子(NPO 法人宇都宮子ども劇場副理事長) 清川輝基(NPO 法人チャイルドライン支援センター代表理事)
めぐろ	11月 13日	10名	子どもは育つの？育てるの？～ 子どもが“ちゃんと”育つた めに今できること！～	林大介(子どもの権利条約ネットワーク運営委員)
よこはま	1月22 日	205名	【基調講演】今だから言えるわ たしの思い』 【シンポジウム】子どものサイ ンを見逃さないために』	渡井さゆり(NPO 法人日向ぼっこ理事長) 小杉雅紘(社会的養護の当事者) 東玲子(弁護士) 松橋秀之(日本水上学園園長・よこはまチャイルドライン理事) 影山秀人(弁護士・よこはまチャイルドライン理事)
ながの	11月6 日	25名	受けそこねた大人のための性教 育	竹内未希代(長野県福祉審議会児童福祉分科会専門委員・処遇審 査部会委員・性教育・人権教育ネットワーク「地域と家庭と学 校と」代表)
すわ	10月 17日	46名	子どもの人権・子どもに寄り添 うとは	林大介(子どもの権利条約ネットワーク運営委員)
MIE	2011年 3月12 日	296名	『子どもの権利』	中山恵里子(三重県健康福祉部こども局こども未来室副室長) 堀内咲子(津市こども総合支援室室長) 田部眞樹子(チャイルドライン MIE ネットワーク代表理事)
しが	2011年 1月8 日	100名	子どもたちのおかれている状況 を考えあう	打田絹子(児童養護施設鹿深の家園長)
とんだば やし	2011年 2月20 日	51名	子どもたちの豊かな成長をめざ して～わたしたちに求められる サポートと支援～	桜井智恵子(大阪大谷大学教授) 齋藤豊治(大阪商業大学教授・弁護士) 渡邊純(大阪芸術大学初等芸術学科長・児童精神科医) 石川育子(チャイルドラインとんだばやし事務局長)
かごしま	2011年 3月12 日	62名	子ども電話相談のあり方につい て考える	養毛良助(鹿児島国際大学大学院教授) 後藤幾子(チャイルドラインみやざき代表理事) 徳丸洋子(NPO 法人いじめ対策プロジェクト代表理事) 西村佐和子(かごしま母親クラブ代表) 奥健一郎(鹿児島大学稲盛アカデミー准教授・チャイルドライン かごしま代表) 松田幸久(小児科医・チャイルドラインかごしま実行委員)

(2)チャリティ夢メッセージ展

2009年度の継続事業として絵馬展を実施した。今後の社会に伝えるメッセージのあり方については、継続して検討を行う。

- ・開催場所：全国 14 箇所
- ・絵馬提供数：111 枚
- ・延べ来場者数：約 11000 人

<参考> これまでの5年間の実績

- ・開催場所：のべ全国 133 箇所
- ・絵馬提供数：のべ 548 枚
- ・来場者数：のべ約 13 万人

2、未設置県へのチャイルドラインの設立を支援し、全国すべての都道府県にチャイルドラインを設立することをめざす。

(1)開設支援事業の実施

チャイルドラインの無い県に対して、チャイルドラインを開設するための支援を行った。

< 2010年度のチャイルドライン設置県 >

43 都道府県 71 団体

< 2010年度発足のチャイルドライン >

いわて(岩手県)、こまえ(東京都狛江市)、ひょうご(兵庫県)、とくしま(徳島県)、こうち(高知県)、さが(佐賀県)

< 設立準備会 >

チャイルドライン未開設県で設立準備会を発足させて準備中

福島県、大分県(2011年5月5日から発足)、鹿児島県

既にチャイルドラインがある都県で設立準備会を発足させて準備中

東京都港区、静岡県浜松市、岡山県笠岡市(2011年4月6日から発足)、山口県下関市(2011年5月5日から発足)

< 未開設県 >

香川県

3、チャイルドラインの運営研修、電話を受けるための研修などの充実を図り、「チャイルドライン」の人材育成を支援する。

(1)全国研修の実施

10月30日(土)から31日(日)の2日間に渡って、国立オリンピック記念青少年センターにおいて、全国の運営中心者を対象にした研修、全国の研修担当者を対象とした研修を、同時に開催した。(財団法人 JKA 補助事業)

- ・日 時 2010年10月30日(土)～31日(日)
- ・会 場 国立オリンピック記念青少年センター
- ・内 容 組織代表者向け：チャイルドラインのこれからの運営を考える
研修担当者向け：持っている力を提供しあい研修のスキルアップを目指す
- ・参加人数 225名

(2)エリア研修の実施

より身近な地域でチャイルドラインの継続性と質を確保するためのエリア研修を1回実施した。(財団法人 JKA 補助事業)

エリア	日程	参加団体	テーマ
北海道東北	12月4日、5日	6CL・19名	各チャイルドラインの課題
北関東甲信越	12月19日	8CL・17名	困っている電話の対応
南関東	12月12日	13CL・31名	頻回事例を考える
東海	11月21日	4CL・42名	コンセンサス実習
北陸近畿	12月4日、5日	13CL・43名	自己尊重トレーニング/基本姿勢の共有
中国四国	12月4日、5日	12CL・45名	ペーパーカウンセリング
九州沖縄	12月5日	7CL・19名	支え手研修

(3)テキストの作成

チャイルドラインの質の向上を図るために、CHI(Child Helpline International)が作成したテキストを翻訳した「チャイルド・ヘルプラインの電話相談実践ガイド[日本語版]」を作成した。(財団法人 JKA 補助事業)

4、全国及び近隣チャイルドライン同士の交流を図るとともに、行政、企業、他団体との連携、協働を推進する。
また、世界の子どもヘルプラインネットワークに参画することによって、世界とつながる。

(1)全国統一番号・フリーダイヤル実施

全国統一番号・フリーダイヤル実施の充実をはかった。

- ・総アクセス数：740,143件 (NTTトラヒック調査による数値) 前年度比+14,902件
- ・総着信数：229,303件(団体のデータベース入力による数値) 前年度比-17,979件
- ・総通話時間：20,462時間(団体のデータベース入力による数値) 前年度比-502時間

(2)子どもの育つコミュニティ構築事業の実施

地域で子どもの活動に取り組む人々とともにシンポジウムなどを開催し、引き続き地域での子どものためのネットワークを構築することを目的に全国4箇所で開催した。(独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」)

開催CL	日時	参加者数	テーマ	講師(順不同・敬称略・肩書きは当時)
千葉	2011年 1月15日	162名	子どもの権利・参画の推進をめざして「子どもの力・地域力フォーラム」子どもが育つ地域をつなぐ。今子どもの現場からみえること	宮本みち子(放送大学教授) 嶋村仁志(プレイパークむさしのプレイリーダー・TOKYO PLAY代表) 前北海(NPO法人ネモチば不登校ひきこもりネットワーク理長) 松島隆一(千葉市子ども企画課課長) 岡田泰子(子ども劇場千葉県センター理事長)
MIE	2011年 1月22日	162名	「子どもの権利フォーラム」in 鈴鹿～子どもに寄り添う大人へ～	田部眞樹子(チャイルドラインMIEネットワーク代表理事) 水井健次(鈴鹿市教育委員会教育長) 森順子(鈴鹿市子育て支援課子ども家庭支援室室長) 亀田佳子(鈴鹿自閉症勉強会代表) 米田奈緒子(家庭教育研究センター) 嶋かをり(NPO法人こどもサポート鈴鹿理事長・チャイルドラインMIEネットワーク理事)
もしもしキモチ	11月3日	162名	「子どもの危機にこころを寄せて」	藤林 武史(福岡市子ども総合相談センター所長) 淵上 継雄(子ども・福祉総合研究所主宰、チャイルドラインもしもしキモチ代表理事) 白石潔(心のクリニック飯塚・子どもセンター所長、チャイルドラインもしもしキモチ代表理事) 小坂昌司(弁護士(福岡県子どもの権利委員会)、チャイルドラインもしもしキモチ代表理事) 山田眞理子(九州大谷短期大学教授、チャイルドラインもしもしキモチ代表理事)
支援センター	2011年 2月19日	30名	子どものこころに寄り添うには	山本多賀子(せたがやチャイルドライン支え手・チャイルドライン支援センター理事)

(3)ネットワーク会議、エリア会議の開催

全国統一番号・フリーダイヤル実施のブラッシュアップのため、5月30日(日)にネットワーク会議を実施した。より身近な問題を交流・研鑽するために、エリア会議はネットワーク会議後及びエリア研修と同時開催した。(財団法人JKA補助事業)

(4)各種イベント・学会等へのブース参加等

チャイルドラインを知らせ、連携するきっかけを得るため、専門分野の学会や、NPO、スポーツ大会等でのブース出展やイベント参加を積極的に行った。

- ・第21回日本小児科医会総会フォーラム(東京)
- ・丸の内キッズフェスタ2010(東京)

(5)CHI 世界大会参加

世界のチャイルド・ヘルプラインと交流を深めるために、2010年10月にスペイン・マドリードで行われた「第

5回CHI世界大会」に参加した。

5、チャイルドラインが受け止めた子どもの声を社会発信し、国や自治体などの子ども政策に反映させ、子どもの権利条約に保障された子どもの育ちを支える社会環境をつくる。

(1)「2010チャイルドライン年次報告」の作成、配布

テーマを「地域をかえる“うねり”を起こそう」とし、2009年度の全国チャイルドラインの活動をまとめ、電話から見える子どもの声、電話のデータ等とあわせて社会に発信するための報告書を4000部作成、行政、各団体、企業などに配布した。(財団法人JKA補助事業)

(2)子どもの声の社会化事業・データベース事業の実施

データベース委員会を設置し、有効な社会発信をするためのデータベースのあり方を検討した。新しいデータベースを、2011年4月1日から稼働させた。

(3)議連、省庁、国会

チャイルドライン支援議員連盟の協力により、企業とのつながりを広げ協力を得ることができた。チャイルドライン支援議員連盟の会期ごとに開かれる学習会開催などを積極的に促進するために働きかけを行い、2010年11月5日第一衆議院会館においてスウェーデンの国会議員などを迎え「スウェーデンでの子どもへの暴力全面禁止の法制化の取り組み」の勉強会を実施、2011年1月20日には伊達直人現象を踏まえ「子ども支援の形を考える」勉強会を実施した。

文部科学省からは一昨年、昨年に引き続き、「平成22年度生徒指導・進路指導総合推進事業」として「問題行動等への対応におけるNPO等の活用に関する実践的調査研究」の委託事業を受けた。また政権交代による「新しい公共」の旗印の下に始まった「子どもを見守り育てるネットワーク推進会議」の委員になった。2011年2月6日には、<子どもを見守り育てる「新しい公共」研究フォーラム>が開催され、分科会を担った。

厚生労働省「児童虐待防止対策協議会」の構成団体

内閣府「全国自殺予防会議」の構成団体

そのほか適宜、文部科学省、厚生労働省、総務省、内閣府を訪問して活動や子どもの状況を伝え、協力関係を強化した。

6、認定NPO法人チャイルドライン支援センターの財政基盤を強化する。

(1)キャラクター展開

キャラクターを電話番号とともに子どもたちに身近なものとするを目的に、あらゆる広報機会をとらえて普及を進めた。また、キャラクターグッズの販売実績を高めるとともに、協働事業による企業との連携機会を広げて、財政基盤の強化につなげた。

(2)ファンドレイジング

継続的に支援を得られる企業との関係強化および新規企業の開拓を行った。また、新しいファンドレイジングのあり方(サポーターズクラブ等)についても具体的にすすめた。

<寄附>

総額 35,236,904円

主な法人・団体(順不同・敬称略)

日本アムウェイ合同会社「One by One こども基金」	10,800,000円
MS & ADゆにぞんスマイルクラブ(三井住友海上火災)(前受け金扱い)	4,000,000円
日本電信電話株式会社	3,000,000円

株式会社 NTT ドコモ	2,000,000 円
子どもの笑顔 100 万個	2,132,951 円
アイリオ生命保険株式会社	1,500,000 円
エキスパートチャリティアソシエーション	1,500,000 円
真如苑	1,500,000 円
ムーンファクトリー株式会社	1,050,000 円
KDDI 株式会社	1,000,000 円
株式会社ベネッセコーポレーション	1,000,000 円
チャリティ・プラットフォーム	406,657 円
株式会社ケイ・オブティコム	300,000 円
株式会社 dff(dff 経由の他企業寄附も含む)	280,000 円
全日本仏教婦人連盟	200,000 円
株式会社カーベル	185,178 円
財団法人資生堂社会福祉事業財団	100,000 円
東京小児科医会	100,000 円
テサテープ株式会社	100,000 円
チャイルドライン支援議員連盟	100,000 円
ほのぼの運動協議会	100,000 円
和光堂	100,000 円
第一三共株式会社	50,000 円
東京ガス株式会社	50,000 円
ファイザー株式会社	50,000 円
夏と冬の特別寄付金	約 350 万円

ほか

< 事業協賛(広告費) >

総額 3,150,000 円(税込)

主な法人・団体 ソフトバンクテレコム・ソフトバンクモバイル・ソフトバンク BB・3 社で 300 万円

< 企業等との関係作り >

- ・通信事業者(NTT株)・(株)NTT ドコモ、KDDI(株)、ソフトバンクテレコム・ソフトバンクモバイル・ソフトバンク BB)から、チャイルドライン事業に対して御支援をいただく
- ・日本ケロッグ株式会社：チャイルドライン事業への支援、市販されている商品パッケージにチャイルドラインのキャラクター及び電話番号の印刷などの御支援をいただく
- ・アイリオ生命保険株式会社：秋のキャンペーン及び基盤整備事業への御支援をいただく
- ・日本アムウェイ合同会社 One by One こども基金：秋のキャンペーンなどへの支援に加え、全国のチャイルドライン実施団体向けに御支援をいただく

なお、企業への啓発活動とファンドの構築を目的として、企業とのバリエーション豊かな協働事業の実践を行うことを模索し、助成金事業として、三井住友海上保険株式会社様との協働が実現した。

他機関との連携

子ども分野で活動する他団体、さらには NPO・市民活動に関する他団体と協力、連携した活動の展開を目的として、諸機関、諸団体への働きかけを積極的に行った。

- ・博報堂との協働により、大人に向けた広告を作成し週刊誌や雑誌に掲載し、チャイルドラインと子どもの状況を伝えた。
- ・社団法人日本雑誌協会：大人向け雑誌において、日本の子どもたちの危機的状況を伝えた。
- ・NPO/NGO に関する税・法人制度改革連絡会：世話団体として参加し、認定 NPO 法人制度、寄附税制などについて、NPO 議連を通じて要望を行った
- ・「広がれボランティアの輪」連絡会：全国的なボランティア・市民活動推進・支援団体等により構成されたネットワークで、ボランティア・市民活動のあり方に関するシンポジウムやフォーラムなどに参加した
- ・NPO 法人会計基準協議会：特定非営利活動法人(NPO 法人)の信頼性向上を目指し、NPO 法人の統一した会

- 計報告の基準を策定することを目的に作られたネットワークで、検討会議に参加した
・市民セクター全国会議 2010：市民セクターの発展を目指して隔年で開催されている会議の実行委員会に参加した

(3)助成、補助

事業計画に即して、財団等からの助成、補助、委託事業などの獲得につとめた。

<総額> 22,454,987 円

<内容>

財団法人 JKA 11,565,000 円 総額のうち 3,782,000 円は清算払い(2011年5月に入金見込み)

「子どものためのセーフティネット「チャイルドライン」強化事業」

虐待防止啓発キャンペーン事業(年次報告)

虐待早期発見強化研修事業(全国研修、テキスト、エリア研修)

独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」7,200,000 円

「子どもの声に耳を澄ませて事業」

子どもの声を聴かせて全国キャラバン事業

コミュニティ構築事業

朝日新聞厚生文化事業団「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」2,422,500 円(内、961,950 円は 2011 年度事業の前受金)

「すべての子どもに心の居場所を」プロジェクト

2009年11月～2011年10月までの2カ年総額で3,500,000 円

ラッシュジャパン 2,000,000 円

子どもが安心して電話ができるように、フリーダイヤルを継続する

フリーダイヤルを継続していくためのサポーター制度の構築

Panasonic NPO サポートファンド 1,500,000 円

「チャイルドラインの活動拠点充実のための財政強化事業」

全日本社会貢献団体機構 1,000,000 円

「チャイルドライン」広報啓発強化事業

連合「愛のカンパ」 1,000,000 円

全国研修

中央共同募金会(ソニー「愛の泉」) 511,437 円

子ども専用電話「チャイルドライン」を子どもたちへ知らせる広報活動

「チャイルドライン」がない県への設置促進

(4)委託事業 文部科学省 2,396,450 円

「平成 22 年度生徒指導・進路指導総合推進事業」

問題行動等への対応における NPO 等の活用に関する実践的調査研究

7、チャイルドライン支援センターのあり方も含めて組織運営の整備に着手する。

(1)組織運営の整備

第三者評価を踏まえ拡大した事業を精査し、組織を整え、諸規定を整備し、活動しやすく働きやすい環境を整える準備をすすめた。